

「文章を書く」

作文や感想文を書く上で、どのようなことに気が付いたら良いか、どのようなことを書いたら良いかなど、11月に小学部の全体自立で学習しました。また、日々の授業でも文章を書く約束や、表現について学んでいます。今回は、保護者の皆様にもお伝えすることで、お子さんの文章の書き方をご家庭でも確認していただき、日々の言葉かけにつなげていただきたいと思います。

《全体自立での確認事項》

- ① 習った漢字は使う
→面倒くさがらずに使う習慣が大切
- ② 助詞の使い方に気をつける
→書いた文章を自分で読み返してみる
- ③ 主語の使い方（繰り返しすぎない）
→「しつこい」印象があることを実感
- ④ 話し言葉と書き言葉の区別
- ⑤ 様子を表す言葉を使う
→五感で感じたことを書き入れたり、擬音語や擬態語を使うことがポイント



全体自立の学習の様子
小学部児童はそれぞれ日々の学習で学んだことをもとに、提示された文章の間違い等に気づいて積極的に発表していました。

これらの文章を書くためには、日々の経験したことを言葉で確認することが土台になります。それが、ご家族のみなさんや教員の毎日の言葉かけの大切さにつながります。

幼稚部では、人や場所の名前、経験したこと、その順序や使った物などの名前、発言を聞く、心情を表す、体全体で活動し感じたことなどを会話や絵で確認し、さらに印象的なことは絵日記にしています。

小学部では、新たに学ぶ言葉の他、同じことを端的に表す言い方や、省略する言い方、相手により言い方を変えることなども学んでいます。また、読書によって、会話では得られない副詞や形容詞に触れたり、多くの表現、心情に触れたりします。

会話ではこれらのことがスムーズにできていても、文章にするととなると、苦手意識があるかもしれません。そのため、これらの視点をもって会話を楽しんだり、文章に表す際のポイントを意識して振り返ったりすると、言いたかったことを表現できる喜びを感じられるようになっていくと思います。ぜひ、ご家庭でも五感を意識した会話を楽しんだり、お子さんの作文を読んで良いところを話し合ったりしてみたいはいかがでしょうか。

寒さが厳しいです



空気電池の電圧は気温に影響されます。冬の間は、毎朝補聴器を装着する前に、1分間ほど空気電池を手の平で温めてから補聴器の電池室に入れるようにしましょう。